



1 役立つIT短大の学び

企業で活躍する本校の卒業生に、本校での学びや、企業で役立つ資格や技術、在校生へのメッセージなどをお聞きしました。
今回、ご協力頂きましたのは、「株式会社 三友製作所」の梶山綾夏さん、武藤治城さん。「㈱日本コンピュータシステム」の仁瓶好貴さん、吉川啓太さんの4人の卒業生です。



左から 吉川さん、梶山さん、榎引先生、仁瓶さん、武藤さん

Q1 IT短大での学びは怎么样了か?

- A1 吉川さん「LinuxやC言語は会社に入っても使用しています」
- 梶山さん「プログラミングの知識だけでなく、IT業界全般に関わる知識が得られるので、とても役立っています」
- 仁瓶さん「今思えば、全ての授業が大切です」
- 武藤さん「ロボット制御プログラム、画像処理プログラムを学びました」



Q2 あると役立つ資格については?

- A2 吉川さん「基本情報処理技術者試験です」
- 梶山さん「現時点では、特にありませんが、学生のうちに取れる資格は積極的に取っておいて欲しいです」
- 仁瓶さん「基本情報、応用情報、資格の有無で仕事が受注できるかが割と変わります」
- 武藤さん「基本情報を取得する上で必要な知識が、会社における業務の前提知識となることがあります。あると役立ちます」

Q3 在学生へのメッセージをお願いします。

- A3 吉川さん「今取り組んでいる仕事で主に使っているのは、大学で学んだC言語です。今、学んでいることは無駄にはなりません」
- 梶山さん「会社によって必要となるスキルは異なります。広い視野で沢山の知識を吸収できる人になって欲しいです」
- 仁瓶さん「勉強は大変だが、全ての授業がとても大切です。しっかりやっておけば、必ず就職して役立つし、使える言語が増えるほど仕事の幅も広がります」
- 武藤さん「まずは、今、出された課題のプログラムに対して、自分で考え作成できるように取り組んで欲しい」

3 新聞を読む学生

本校では、「専門力」に加えて「社会人基礎力」の向上のために、新聞スクラブを実施しています。IT社会を支える人材育成の一環となるものです。

<記事> 茨城新聞(2023年6月1日) 企業が自治体DX支援

◇要約

●一戸虹都美さん(水戸三高卒)
企業が全国の市町村に人材を派遣し、デジタルトランスフォーメーションを支援する動きが広がっている。市町村側の企業人材の評価は高く、派遣企業にとっても新規事業のネタを掴めるなど双方に利点があるようだ。



◇感想

●川上由姫奈さん(水戸商高卒)
地方自治体のDX化は、やりたくてもITを扱える人材が不足している。効果が不明瞭などといった課題もあり手を出せないことが多い。

その打開策として企業から人材を派遣するという発想は素晴らしいと思った。

●小野瀬あゆさん(那珂高卒)
私の祖父がガンを患っているのですが、離れて暮らしているため、一人の時に何かあったら心配なことが多くあります。祖父の地域にもこのような取り組みが普及してくれば安心できるだろうと思いました。

●根本遼太さん(那珂高卒)
DXが発展している今、この技術があるからこそで出来ることが増えていく。

そして、そんな技術がまだ行き届いていない市町村を支援するために、市町村に直接エンジニアが訪問する動きはとても良いことだと感じた。

●關山綾仁さん(常磐大学高卒)
現代社会においてデジタル化が進み、DXなどが重要視されていくと感じた。

システムエンジニアなどの技術者たちの需要が高まっていくと思った。私も社会貢献ができる技術者になりたい。



2 IT技術をアップデート!



「高度スキルアップセミナー(在職者向け)」が6月6日(火)~7日(水)の2日間、『AIのためのPython(基礎)』講座が開催されました。本校の卒業生も含め18名が参加しました。データ分析に不可欠なPythonの基本を学び、技術をアップデートしていました。

